

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年6月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県女性農業経営アドバイザー 中濃ブロック全体会開催支援

6月19日、岐阜県女性農業経営アドバイザー中濃ブロックの全体会が中濃総合庁舎で開催され、武儀地区の会員も参加した。

当日は今年度の活動計画等の話し合いが行われ、アドバイザー相互の交流を図ることができるよう活発な意見交換が行われた。

また今年度は、県の視察研修会が中濃ブロック管内で行われるため、研修テーマや当日の流れ等の確認も併せて行われた。

農業普及課では、今後も引き続きアドバイザーの自主的な組織活動への支援を行っていく。

(地域支援係)



【全体会議】

■円空さといも 第2回就農塾（さといもコース）開催

6月13日、関市内さといもの担い手ほ場において、JAめぐみのが主催する就農塾（さといもコース）が開催された。

今回はさといものダツかきについての研修が行われ、さといも生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、ダツかきを行う必要性や作業手順についての説明を行った。受講生は熱心に説明を聞いた後、実際にダツかき作業を行った。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を行い、新規就農を目指す受講生がスムーズに就農できるよう支援していく。

(地域支援係)



【ダツかきの説明】

■いちご 採苗の準備

中濃いちご生産組合（組合員数16人）では、JAめぐみの実証ほ場の研修修了者が新規就農者として新たに部会に加わり、いちごの生産に向けた作業を開始している。

ハウスの建設とともに、実証ほ場で管理していたいちごの親株を自分の育苗ハウスに移動させ、採苗を行うためベットの調整やかん水チューブの設置等の作業を進めている。

農業普及課では、育苗管理全般の状況を確認するとともに、病害株の区別や遮光資材の設置とハウスの通気性に注意するよう指導した。

今年度も昨年度並みの高温が予想されているため、しっかりとした苗作りを行い、花芽分化が遅れないような管理を生産者とともに進めていく。

(地域支援係)



【親株の手入れ】

■夏秋なす JAめぐみの就農塾

6月4日に、関市小瀬ほ場にて、JAめぐみのが主催する就農塾（夏秋なすコース）が開催され、6名の受講生が出席した。

今回はなすの主枝決定、誘引、葉かきについて研修が行われ、夏秋なす生産者やJAめぐみの、農業普及課が講師となり、作業の必要性や注意点についての説明を行った。受講生は熱心に説明を聞いた後、実際に作業を行った。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を行い、受講生のスムーズな就農を支援していく。

(地域支援係)



【誘引作業の様子】

安いで身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 収穫

中濃農林事務所管内では、小麦「さとのそら」が約 230ha 作付けされており、農業普及課では J Aめぐみのと連携し、生産者ごとの成熟期や穀物水分等を確認しながら、適期収穫の指導を行い、6月6日から収穫が開始された。

また生育期間を通じ、J Aめぐみの、J A全農岐阜と連携して実証ほ等 12ヶ所を生育調査してきた。6月上旬に成熟期を迎え、5月22日に成熟期調査を行い、穂長・稈長・茎数を測定した。また坪刈り、脱穀調製を行い、収量・品質調査等を行った。

農業普及課では、小麦の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。

(地域支援係)



【成熟期の小麦ほ場】

■水稻 生育調査

中濃農林事務所では、水稻における品種や肥料の実証ほ等 44ヶ所を生育調査地点として設定した。

6月14・17日、水稻生育調査が本格的に始まり、草丈、茎数、葉色の生育調査を J Aめぐみの、J A全農岐阜と連携して実施した。今年も例年通りの時期に田植えが行われ、概ね順調に生育していることが確認できた。

農業普及課では、水稻の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。

(地域支援係)



【生育調査の様子】

■農産物直売所 農薬研修会

6月18～20日に、道の駅美濃にわか茶屋の農産物直売所出荷者向け研修会が開催され、農業普及課が講師となり、農薬の適正使用とともに、にんにく栽培の注意点と農作業安全についても説明した。

研修会には多くの生産者が出席し、農薬を取り扱う際の注意点について再確認した。

農業普及課では、農薬の適正使用を徹底することで、安心な農産物の提供を推進するとともに、生産者の農作業事故を減らすための指導を行っていく。

(地域支援係)



【研修会】

■有機農業の推進 機械除草機の実演

6月24日に、化学合成農薬及び化学合成肥料を使用しない水稻「みのにしき」栽培水田にて、乗用型機械除草機の実演を行った。

この「みのにしき」は、地元の酒造会社で醸造する特別純米酒「さんやほう」の原料になるもので、従来から化学農薬や化学肥料を一切使用せず栽培されてきたが近年、収量や品質が低下しており相談があった。

今年度は、有機農業推進チーム活動の営農モデル実証ほに位置づけ、収量と品質低下の要因を探るが、要因の一つと考えられる雑草対策として農産園芸課の支援を得て実演を実施した。

引き続き、生育調査や病害虫の発生状況、雑草の発生状況などを調査し収量及び品質低下への対策を検討していく。

(地域支援係)



【機械除草実演の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋なす 目揃会

6月19日にJAめぐみの下有知集荷選果場にて、中濃夏秋茄子生産出荷組合目揃会が開催された。29名の生産者及び選果作業員が出席し、選別基準や市場情勢についての報告を受けた。

農業普及課からは、収穫期からの管理についての栽培指導を行い、病虫害の発生や体調管理等について十分留意するよう伝えた。また、今年度組合にて硝酸イオンメーターを整備し、生産者自らが葉柄の硝酸を測定できるよう実演しながら、測定方法を指導した。

農業普及課では、今後、新規栽培者の巡回指導等を重点的にを行い、夏秋なすの収量・品質の向上を支援していく。

(地域支援係)



【目揃会での栽培研修】

■さつまいも コガネムシフェロモントラップの設置

6月10日に、農業経営課の支援を受けて、美濃市のさつまいもほ場にコガネムシのフェロモントラップ（ヒメコガネ、マメコガネ、ドウガネブイブイ）を設置した。成虫の飛来状況を確認することで、防除適期を判断することを目的とし、経時的に捕獲頭数を確認していく。

6月26日に1回目の飛来数調査を行い、ヒメコガネ14頭、マメコガネ39頭、ドウガネブイブイ8頭の飛来を確認した。

農業普及課では、今後も調査を継続するとともに、収穫期には掘り取り調査を行い、コガネムシ類幼虫の生息数と齢期を調査する。

(地域支援係)



【トラップ設置】